

上関町の歴史

時代	西暦	和暦	できごと
奈良	736	天平8	新羅の使節が祝島沖を航行し和歌を読む(「万葉集」)
平安 安	857	天安元	竈八幡宮ができる
	886	仁和2	伊美別宮社(大分県国見町)の杜人が祝島に避難する(神舞の起源)
	1090	寛治4	八島と竈戸関が上賀茂神社社領となる
	1185	文治元	平氏が都を追われ源氏方と戦いながら瀬戸内を西に下る(源平周防国合戦)
鎌倉	1307	徳治2	北条家一門の金沢氏が上関を所領とする
南北朝	1352	文和元	賀茂神社ができる
	1389	康応元	足利義満、三田尻で大内義弘に会い、帰路上関に立ち寄る
室 町	1443	嘉吉3	李氏朝鮮の学者申叔舟が使節として日本に滞在、後に『海東諸国記』を著す
	1445	文安2	上関薬師丸が東大寺への納米を積んで兵庫に入港
	1467	応仁元	上関太守蒲刈源義就が朝鮮に使いを送る
	1551	天文20	大島衆(宇賀島衆)乗る陶氏の廻船が上関城を銃撃して通過
	1555	弘治元	厳島の戦いで戦死した村上衆が弔われる(六人塚)
	1568	永禄11	能島村上氏の村上武吉が上関城に居住する
桃安 山土	1586	天正14	宣教師ルイス・フロイス、上関のキリシタン女性と対面する
	1594	文禄3	豊臣秀吉が上関超専寺に立ち寄る
	1596	慶長元	文禄の役講和のための朝鮮使節一行が上関に寄港する
江 戸	1604	慶長9	浦景継が上関に移り住み上関での神明祭が始まる
	1607	慶長12	朝鮮通信使一行が上関に寄港(以後1764年まで計11回の使節団が寄港)
	1632	寛永9	四代に番所建設
	1650	慶安3	防長両国が18宰判に分かれ、上関・祝島・八島・室津は上関宰判に属する
	17世紀後半		北前船の寄港が盛んになる
	1711	正徳元	琉球使が上関に寄港する 四代の番所が上関に移る
	1813	文化10	上関に越荷会所が設置される
	1826	文政9	シーボルトが上関に立ち寄る
	1844-48	弘化年間	上関海峡に砲台が築かれる
	1853	嘉永6	吉田松陰が長崎行き途中室津に立ち寄る
	1863	文久3	七卿落ちの際五卿が室津に肥後屋を宿とする
	1864	元治元	義勇隊が西方寺に駐屯する 義勇隊隊員高橋利兵衛ら3人が田布施町別府沖に停泊する 薩摩船を焼き討ち(加徳丸焼討ち事件)
	1865	慶応元	坂本龍馬が山口に向かう途中上関に立ち寄る
	1866	慶応2	第二奇兵隊の脱走者が上関で捕まる 高杉晋作が丙寅丸で室津に入港し、林半七と密談する(四境戦争)
明 治 ・ 大 正 ・ 昭 和	1873	明治6	蒸気船オ TENT丸が萩-大阪間の定期航路を開始、室津に入港する 室津村・上関村連合で上関の御茶屋付御長屋で小学校を開校(首席教員長尾文謙)
	1879	明治12	小方謙九郎が四階楼を建てる(棟梁は吉崎治兵衛)
	1884	明治17	室津が大阪商船の定期航路の寄港地となる
	1888	明治21	熊毛郡内でのハワイ移民の公募が始まる
	1889	明治22	市町村制実施により上関村(長島・祝島・八島)と室津村が成立する
	1909	明治42	町内で初めて八島に灯台が設置される
	1945	昭和20	光基地から発進した特攻兵器「回天」を操舵中、行方不明になった和田稔さんが白井田に漂着し、遺体で発見される(白井田「回天」記念碑)
	1958	昭和33	上関村と室津村が合併し上関町ができる
	1969	昭和44	上関大橋が開通する